

「四十九歳になりました。」

園田東小学校は、今年で49歳（数え年）になりました。10月18日は創立記念日です。昭和37年4月1日に園和小学校からわかれて開校式を行いました。

長い道のり

江戸時代には、治田寺に寺子屋がありました。「読み・書き・そろばん」の勉強です。その他に、親の教育、子どもどうしの教育、弟子入りなどの教育の場がありました。

明治6年10月 戸の内村に「戸の内小学校」ができました。治田寺あたりではないかと言われていました。

明治10年から12年まで、小墾田（下坂部）小学校の「分校」になり、12年には「戸の内小学校」に戻ります。

明治20年の小学校令で「戸の内簡易小学校」と名前も変わり、22年に園田村ができました。

明治26年には、戸の内村の新家に移転します。今の東園田6丁目です。校名も「園東尋常小学校」に変わりました。33年に「園田第二小学校」37年に「園田尋常小学校」と名前が変わり、42年には今の園和小学校の場所に移転します。

大正16年「園田第二国民学校」昭和22年川辺郡園田村が尼崎市園田地区に変わったとき、「尼崎市立園和小学校」と名前が変わります。

大正13年ころ、戸の内三丁目から六丁目にかけて、大阪毛ス倫（モスリン）工場がありました。モスリン橋はこの会社がつくった橋で、社宅という地名も残っています。この後、合同紡績、新興毛織、カネボウと変わっていきます。昭和17年国際航空となり、戦争中は、飛行機の部品を作っていました。

昭和30年代には2千人近い児童、40学級、二部授業と、園和小では大変児童数が多くなり、勉強しにくくなりました。そこで、戸の内地区の皆さんの長年の願いが実現することになりました。

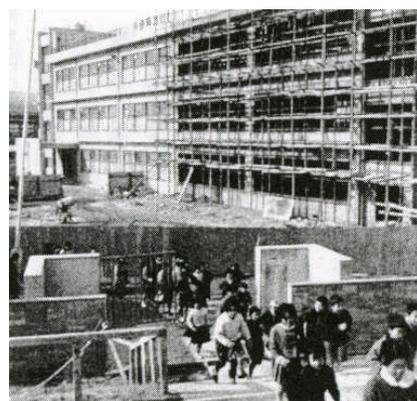
地域の願い

「今日もまた雨、小さい子どもの通学姿」。「50分もかけて、厳寒のさ中にも、猛暑をものりこえて徒歩通学する姿」を見るにつけ、「戸ノ内地区に私たちの学校が欲しい」という願いは「住民すべての切なる願い」。園田東小学校はそういう気持ちのこもった学校です。土地を提供して頂いた19名の方や地域全ての方がつくった学校です。

建設工事の時、看板には「仮称・戸の内小学校」とありました。

開校しても、

学校のまわりは一面の草原、その中に北校舎と校務員室・給食室がぼつんと建っていました。運動場は雨が降ると一ヶ月も泥んこで使えません。門も無ければ塀も無く、木の一本もありません。「水なし・ガスなし・電話なし」。水は遠くまでもらい水、ガスがないので、校務員室の手作りの大きなかまどで木ぎれを燃やし、電話は製紙会社に借りに行くという日々だったそうです。教室に入れ物もなく、教室の床にすべて並べて置いてあったそうです。当時の東小を記念誌では「はだかの学校」と書いてありました。



みんなで創った東小

たくさんの保護者・地域の方が「私たちの学校だから」と、協力費を出し合い、木を植えたり花を咲かせたり、体育館の緞帳やピアノなどあらゆるものをそろえられたそうです。

家で育てられた木を植えていただいたのもこの頃です。また、戸ノ内の梶山さんのお話しでは、桜を学校中に植えたけど枯れてしまったので、二回も桜を植えられたそうです。

運動場の整地作業や教室の窓ふき、大掃除、草刈り、除草作業などたくさんの保護者・地域の方が学校づくりに力をおかしくいただきました。

東小のみんなはその気持ちに励まされて、学校給食優良校として文部大臣賞をもらっ

たり、健康優良校の受賞、花壇コンクール入賞など、大変がんばりました。

また、昭和42年7月9日のことです。台風が吹き荒れました。ものすごい水害でした。床上60cm、体育館の床も全部そりあがって、まわりは大きな泥水の池になっていました。すると、いつのまにか地域のみなさんが学校に集まって来られ、自分の家は放っておいて、真っ先に学校の復旧に何日もがんばってくださいました。園田東小学校はそういう学校です。

東小で有名な児童の活動のひとつに、「ブラスバンド」があります。地域の力でトランペット鼓隊をつくっていただき、大阪千里の万国博覧会で演奏したり、市制記念行事やあらゆる行事に出演しました。また、毎日放送の「子ども音楽コンクール」で入賞しました。合唱部門も入賞しました。たそがれコンサートに、緑化大会にと大活躍をしました。



また、東小は「ミニバス」も有名でした。昭和57年3月末に、全国大会に出場しています。その後も地区のバスケットボールで活躍し、一昨年の男子優勝に引き続き昨年は、男女のペア優勝をしました。

昭和58年にはナイター工事が完成しました。

平成19年には「30人31脚」にも出場しました。学年の保護者と子ども達と学級担任とが力を合わせてがんばりました

同校のミニバスケットボール部は、五十四年十一月に結成された。いっしょに、連日の厳しい練習が、今年一月の県予選男子が、見事に初優勝を挙げた。全大会(二十八・三十日)には、南の代表四十七人が集まり、戦を繰り広げる。全国大会に出場するのは、主将松本隆君と六年生の男子十三人。激励には、日下部長、岡部長、木村第一教諭と、選手らの母代表の中村シズ子さん(ましろ)そ、福臨園教育長から激励を受けた。これとを本誌

県代表を励ます

ミニバス 全国大会出場 園田東小

君が「二人一人の力を発揮し、立派な成績を残さるよう頑張らな」と激励を送った。

激励を受ける園田東小ミニバスケットボール部員(尼崎市教委)

阪神淡路大震災 (戸田教頭先生のお話)

「昭和47年度には、1093名を数えた児童数も、平成6年度私が赴任した時は児童数363名でのスタートでした。

私が就任していた5年間に園田東小の歴史に大きな変化がございました。平成6年から平成10年の5年間で実に100名の児童が減ったのです。その大きな引き金となったのは、ご存知の通り『阪神淡路大震災』です。

・・・平成7年1月17日の早朝・・・とんでもない大きな揺れ・・・急いで学校に直行しました。体育館前には、すでに多くの地域の人たちが避難し始めていました。・・・東門のブロック塀はほとんど倒れていました。理科室は消火器が倒れ真っ白。校長室の重たい金庫が動いていました。丸池の水は半分になっていました。ライフラインは寸断され、真っ先にトイレがSOSでした。体育館の避難者は多いときで400名をこえました。学校は3日後に再開しました。

避難者を世話するために、教育委員会の指導主事・園田東の教職員が日曜出勤泊まりで対応しました。そして、その避難者を自治会がまとめ、尼崎でも一番の自治のまとまりだったそうです。この間もPTA活動は『園田東小の子ども達のため』だからと続けられ、ご自分の家が半壊・全壊状態で大変な時に、学校を支えていただきました。

平成8年には『震災復興頑張り』とすることで、PTA『東小カーニバル』が夏休みに開かれました。」

みんなに支えられて

西側の長いブロック塀が地震ですぐに倒れそうなもろさなのでフェンスに造り替えてもらった平成18年夏、豊中に局地的集中豪雨がありました。

近辺の低いところは、園田でも水に浸かりました。その時「北部浄化センター」の排水用ポンプが落雷を受けたため、町会に降った雨が排水されず、すべて東小に押し寄せてくるという事件がありました。

学校中水浸しです。運動場、校舎、給食室、体育館などに汚水と一緒に流れ込んできました。学校に残っていた子供たちは、大人の人たちに助けられながら下校しました。学校が水に浮いたようになっていました。

この時、校舎の消毒、パイプ椅子に染み込んだ水を出す作業など、学校の復旧作業のために、PTAのみなさんや教育委員会、園田地区の小学校の先生方が駆けつけてくださいました。テレビで中継される等、大変な事件でした。

そして、今

東小は、みなさんに支えられている学校です。平成20年には、ビオトープも保護者・地域の皆様のご協力のおかげでできました。東小の伝統に支えられ、図書ボランティア・環境ボランティアの皆さんやPTA・地域の皆さんに、子ども達も学校も支えられています。

おかげさまで、子ども達の学力も生活習慣も向上しています。

また、校内に掲示してあるスポーツの記録や契沖賞など、学習に行事にすばらしい足跡を残しています。

昨年から1年生から六年生まで英語活動に取り組んでいます。来年度は研究発表をする予定です。また、放課後には園田東小学校応援団の取り組みが進んでいます。

この49年間の出来事を振り返り、学校や地域のことをしらべたり、家族のみなさんの小学校時代のことを子ども達に教えていただいて、温かい心の絆を太くかたくしていければいいなと思っています。 来年50歳です。